

道路事業の再評価説明資料

〔国道49号 ^{すいばら}水原バイパス〕

(一括審議)

平成30年11月

北陸地方整備局

目 次

1. 前回事業評価からの進捗状況	P	1
2. 事業の投資効果	P	3
3. 再評価の重点化・効率化判定票（道路・街路事業）	P	4
4. 費用対効果	P	5
5. 事業の必要性、進捗の見込み等	P	6
6. 対応方針（原案）	P	7

別冊 費用対便益算出資料〔様式集〕

1. 前回事業評価からの進捗状況

(1) 前回事業評価から事業実施状況

年度	主な経緯
平成21、24、27年度	事業再評価（指摘事項なし、継続）

(2) 事業の進捗状況 平成30年度末（予定）、金額は税込み

	全体	執行済額	進捗率	残事業費
事業費	約350億円	約194億円	56%	約156億円
うち用地費・補償費	約50億円	約48億円	97%	約2億円

※表示桁数の関係で一致しないことがある

○改良工事・橋梁工事を推進。



写真1 終点部（阿賀野市下黒瀬）より福島県方面を望む

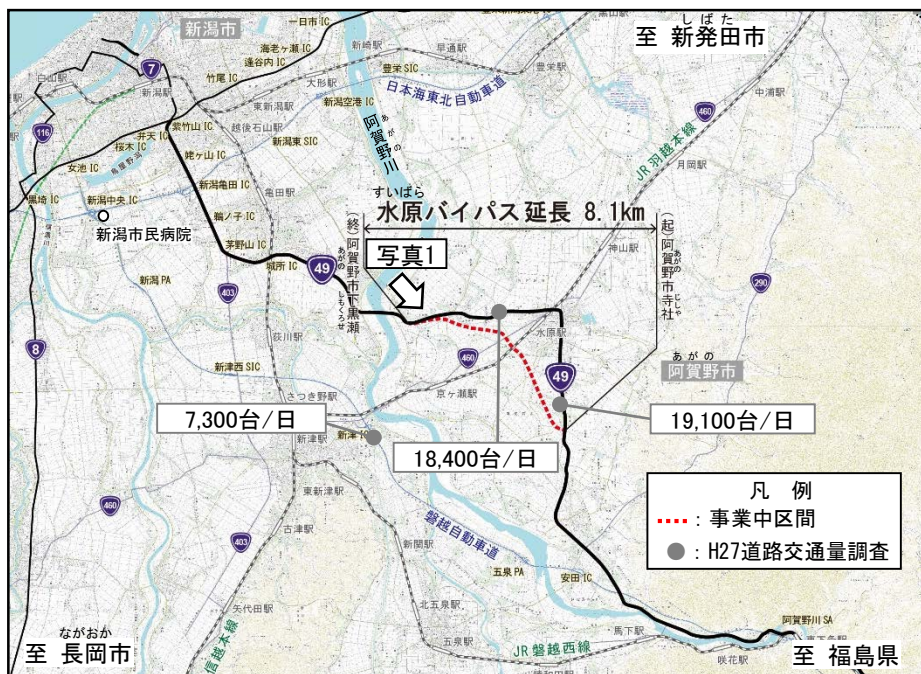


図1 位置図

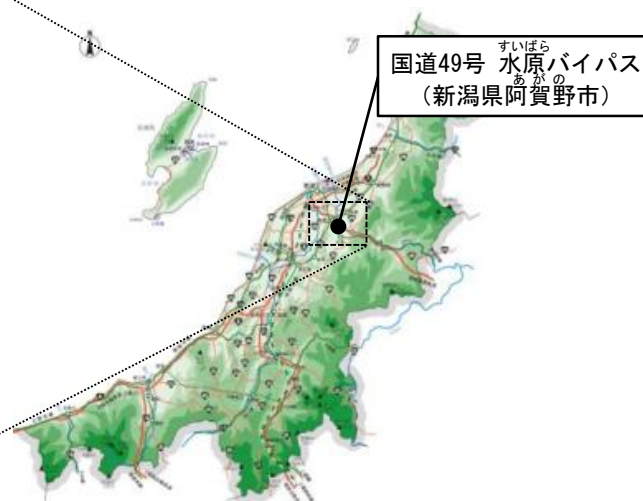


図2 広域位置図

2. 事業の投資効果

事業の効果等

(1) 便益に係る整備効果

① 走行時間の短縮

- ・ 水原バイパスすいばらの整備により、円滑な走行環境が確保され、事業区間の走行時間が約11分短縮するとともに、渋滞損失時間は年間約63万人時間の削減が期待される。

② 交通事故の減少

- ・ 水原バイパスすいばらの整備により、現道の通過交通がバイパスに転換し、年間約12件の死傷事故件数の削減が期待される。

(2) その他の効果

① 日常活動圏へのアクセス向上

- ・ 水原バイパスの整備により、阿賀野市あがのに隣接する新潟市との通勤・買い物圏域が拡大するとともに、通勤・買物の利便性向上が期待される。

② 生活環境の改善

- ・ 水原バイパスすいばら整備に伴う通過交通の転換により、現道区間の生活道路や歩行者・自転車空間の安全性改善、沿道地域の騒音低下が期待される。

③ 防災機能の強化

- ・ 高盛土構造で計画される水原バイパスすいばらの整備により、阿賀野川あがの氾濫時の緊急輸送道路としての機能向上や、並行する磐越自動車道ばんえつ通行止め時の代替ルートとしての役割が期待される。

④ 救急救命活動の支援

- ・ 水原バイパスすいばらの整備により、第三次救急医療施設である新潟市民病院への救急搬送時間が短縮し、救命救急活動への支援が期待される。

⑤ 阿賀野市の観光・交流支援

- ・ 事業区間周辺に点在する観光施設へのアクセス性が向上し、観光・交流の活性化が期待される。

3. 再評価の重点化・効率化判定票（道路・街路事業）

年度： 平成30年度 事業名： 国道49号 水原バイパス

担当課： 道路計画課 担当課長名： 御器谷 昭央

項目	判定	
	判断根拠	チェック欄
事業を巡る社会経済情勢等の変化		
事業の効果や必要性、周辺環境等に変化がない	事業の効果や必要性、周辺環境等に変化がない	■
前回評価からの事業費・事業期間の増加		
事業費の増加	事業費の増加はない	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> 増加無し 10%以内増加 </div> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
事業期間の増加	事業期間の増加はない	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
前回評価からの費用対効果分析に関する影響要因の変化等		
費用便益分析マニュアルに変更がない	費用便益分析マニュアル改訂(H30.2)	<input type="checkbox"/>
需要量の変化(需要量等の減少が10%以内)	需要量等の減少はない	<input checked="" type="checkbox"/>
周辺ネットワークで新規事業化がない	周辺ネットワークで新規事業化がある	<input type="checkbox"/>
下記のうち、一方もしくは両方を満たしている ・事業費に比して費用対効果分析に要する費用が大きい ・前回評価時の感度分析における下位ケース値が基準値を上回っている	前回評価時における感度分析の下位ケース値が基準値を上回っている。 平成27年度評価時の感度分析の下位値 [全体事業]・交通量(-10%) B/C=1.6 [残事業]・交通量(-10%) B/C=2.5 ・事業費(+10%) B/C=1.5 ・事業費(+10%) B/C=2.3 ・事業期間(+20%) B/C=1.4 ・事業期間(+20%) B/C=2.3	<input checked="" type="checkbox"/>
前回評価で資料の作成を省略していない		<input type="checkbox"/>
前回評価で費用対効果分析を省略していない		<input type="checkbox"/>
その他の事由(重点的な評価が必要な特別な事由)	なし	—

以上より、審議区分：**一括** 資料：**省略** 費用対効果分析：**実施** とする。

4. 費用対効果

事業名	国道49号 ^{すいばら} 水原バイパス							
起終点	起点：新潟県阿賀野市寺社 終点：新潟県阿賀野市下黒瀬					延長	8.1km	
事業概要	国道49号 ^{すいばら} 水原バイパスは、交通渋滞の緩和、交通事故の低減、広域ネットワークの機能強化などを目的とした、延長8.1kmの4車線のバイパス事業である。							
平成10年度都市計画決定	平成12年度事業化		平成15年度用地着手		平成17年度工事着手			
全体事業費	約350億円	事業進捗率 (平成30年度末予定)	56%	供用済延長	—			
計画交通量	19,900～22,200 台/日							
費用対効果 分析結果	B/C	総費用	(残事業) / (全体事業)	総便益	(残事業) / (全体事業)	基準年度		
	(事業全体) 1.4 (残事業) 3.3	190/433億円 事業費：123/367億円 維持管理費：67/67億円		618/618億円 走行時間短縮便益：535/535億円 走行経費減少便益：68/68億円 交通事故減少便益：15/15億円		平成30年度		
感度分析の結果								
(事業全体)	交通量：(-10%～+10%) B/C=1.2～1.5	(残事業)	交通量：(-10%～+10%) B/C=2.8～3.5					
	事業費：(+10%～-10%) B/C=1.4～1.5		事業費：(+10%～-10%) B/C=3.1～3.5					
	事業期間：(+20%～-20%) B/C=1.4～1.4		事業期間：(+20%～-20%) B/C=3.2～3.3					

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内容と一致しないことがある。

※費用対効果分析結果及び感度分析の結果の欄に係る数値は平成30年度評価時点。

※費用及び便益額は、10以上：整数止め、1.0より大きく10未満：小数点1桁止め、1.0以下：小数点2桁止め とする。

※費用対効果分析結果及び感度分析の結果は原則小数点1桁止め。ただし、四捨五入で1.0となる場合は、小数点2桁止め。

5. 事業の必要性、進捗の見込み等

事業の必要性等に関する視点

【事業を巡る社会経済情勢等の変化】

○前回再評価以降、大きな社会情勢などの変化はない。

【事業の投資効果】

○「走行時間の短縮」「交通事故の減少」「日常活動圏へのアクセス向上」「生活環境の改善」「防災機能の強化」「救急救命活動の支援」「阿賀野市の観光・交流支援」などの効果が発揮される。

【事業の進捗状況】

○事業の進捗状況：用地進捗率 97%、事業進捗率 56%（平成30年度末予定）

○残事業の内容：改良工事、橋梁工事

事業の進捗の見込みの視点

- ・改良工事、橋梁工事を推進し、平成33年度の全線暫定2車線供用に向けて、整備を進める。
- ・4車線整備については、交通状況を勘案しつつ、整備時期などを検討する。

コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

- ・施工にあたっては、新技術の積極的な活用、建設発生土の有効活用等により、コスト縮減に努める。

関係する地方公共団体等の意見

- ・地域から頂いた主な意見等：阿賀野市など2市1町の首長で構成される新潟県国道49号整備促進期成同盟会等より、整備の要望を受けている。
- ・知事の見解：県民の命と暮らしを守り、豊かな新潟県を創るため事業継続を望みます。本事業は、市街地の交通混雑緩和や交通事故低減のほか、産業観光拠点へのアクセスが改善され、地域間交流を促進する効果があることから、本県にとって重要な事業と認識しております。今後も事業実施により1日も早い完成をお願いします。

6. 対応方針（原案）

事業継続

（理由）

- ・当該事業は、現時点においても、その必要性、重要性は変わっておらず、事業進捗の見込みなどからも、引き続き事業を継続することが妥当であると考える。